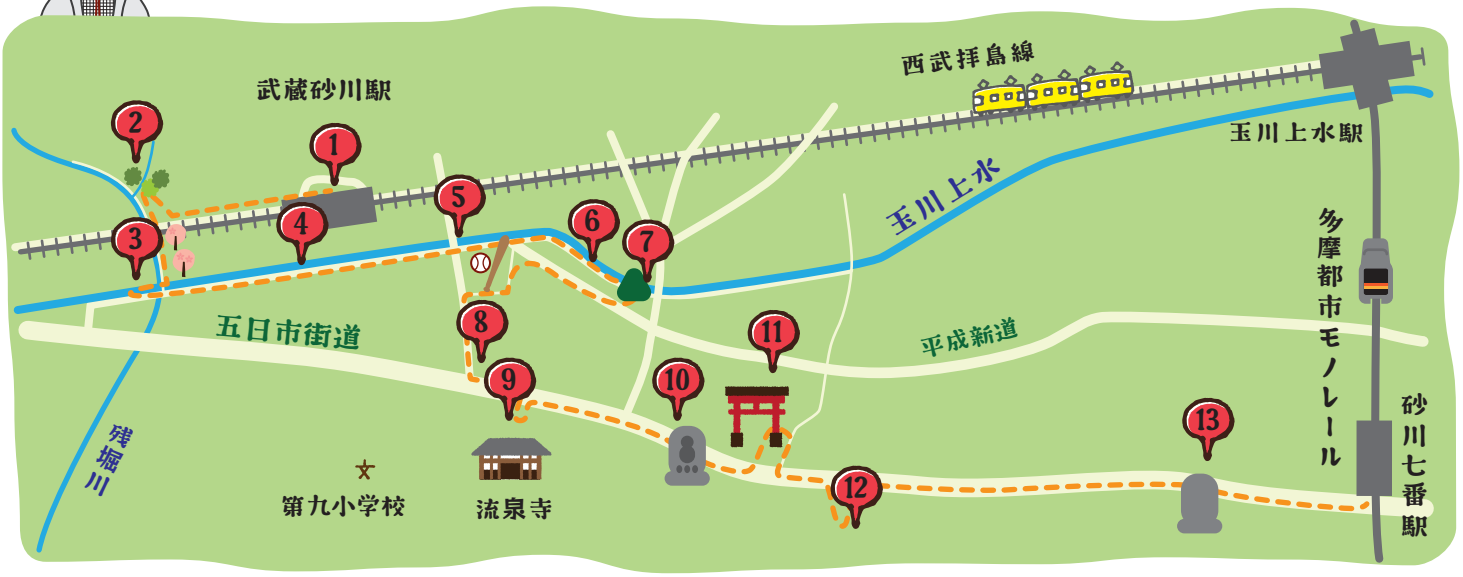
立川歴史散歩

砂川発祥の地を歩く

一部紹介

2022年10月23日



① 武蔵砂川駅

散歩スタート地点の武蔵砂川駅は、立川市、武蔵村山市、日産自動車などの出資により開設され、武蔵村山市の「武蔵」と「砂川」が名前の由来になっています。

② 残堀川古水路

水がない砂の川だから砂川…これが地名の由来だそうです。
下砂橋遊び場南側に江戸時代の旧水路の跡があります。

③ 伏越し工法

玉川上水と残堀川は以前は合流してましたが、水質悪化のため玉川上水が上で残堀川が下を通るように分けました。今は伏越し工法により玉川上水が下で残堀川が上を通っています。

④ いろんな橋

しんや橋は、家の分家を新家（しんや）と呼び、更に分家ができた時に新家（にいや）と呼んだそうで、その家の裏の橋というのが由来だそう。一の橋～八の橋まであります（新家橋は三の橋）。

⑤ 見影橋（四の橋）

元々は砂川家の当主（旦那様）が水田の出来具合を眺めていたことから旦那橋と言ってた木造の橋を、御影石に作り替えた時に名前を見影橋と変更しました。

⑥ 巴河岸跡

玉川上水に船が通ってた時代の船着場跡。明治３年から２年間だけ船が行き来していたそうです。

⑦ 金毘羅山

立川唯一の山で高さは約10ｍあります。玉川上水開削時の残土説などがありますが、平成 16 年に発見された古文書によると、江戸時代におよそ 1100 人ほどが参加して築いた富士塚なんだそう。麓には邨田丹陵が大政奉還の図を描いた家が残っています。

⑧ 砂川家屋敷

砂川新田開発名主、砂川家の屋敷。今は暗渠になった砂川分水がこの部分だけ見られます。

⑨ 流泉寺

今回の散歩では中には入りませんでしたが、学校教育発祥の地として第九小学校創立 100 周年記念碑と小安伝先生の顕彰碑を見学しました。小安伝先生は当時でも珍しい制服を取り入れ、子どもたちは黒無地の着物で貧富関係なく同じものを着ました。

⑩ まいまいず井戸跡・庚申塔

どちらも住宅街に溶け込んで見落としそうな場所にあります。
まいまいず井戸は砂川分水が開削されるまで使われていたそう。
※庚申塔については下段参照。

⑪ 阿豆佐味天神社

東京では日本橋とここにしかない水天宮や猫返し神社として人気のある蚕影神社（蚕の守り神）、4人の唐子が担いだ珍しいデザインの手水鉢、土台が削られた石灯籠や市内最大の石造物である慰霊塔など、さまざまな逸話がありました。

⑫ 砂川闘争跡見学

砂川学習館にある砂川基地拡張反対闘争の資料などを見学しました。砂川学習館の建替により資料展示スペースはなくなってしまうそうです。

⑬ 堂山墓地

流泉寺の墓地。独特の字体で「南無阿弥陀仏」と彫られた名号塔や即身仏となった方の墓石のほか、上記地図 10 番の史跡でも見られた庚申塔がありました。

庚申塔（こうしんとう）とは

旧暦で 60 日に 1 度訪れる庚申（かのえさる）の日は、さんしという体内の虫が寝ている間に天へ昇ってその人の悪事を天帝に報告し、罪状によっては寿命を縮められるといわれていました。人々は庚申の日は寝ないで語り合い、その集まりが 3 年 18 回続けられた時に建立されたのが庚申塔です。青面金剛や月･太陽、三猿などが刻まれています。

今回の歴史散歩は天気にも恵まれ、各所でじっくり解説をききながらのんびり進むことができました。身近な場所・見たことがある場所にも逸話が隠されていて面白いです。